

(様式1)

研修・視察報告書

令和 2年 2月14日

みどり市議会議長
大澤 映 男 様

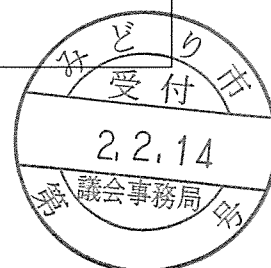
みどり市議会議員 阿左美 守 椎名祐司 藤生吉顕
須藤日米代 丹羽あゆみ

下記のとおり研修・視察が終了したので報告します。

期間	令和2年 1月29日(水) ～令和2年 1月31日(金)
研修・視察先 及び所在地	1. 愛知県田原市「たはら健康マイレージ」について (健康福祉部健康課) 2. 愛知県田原市「親子交流館すくっと」について (健康福祉部健康課) 3. 静岡県湖西市「移住・定住施策」について (企画部企画政策課) 4. 静岡県湖西市「ボートキッズパークモーヴィ浜名湖」について (浜名湖競艇企業団)
参加者氏名	椎名祐司・阿左美守・藤生吉顕・須藤日米代・丹羽あゆみ
目的	別紙
概要	別紙
成果・所感	別紙

※「目的」「概要」「成果・所感」は別途書式に替えることができる。

※「成果・所感」は、参加者全員が記入する。



視察報告書 みどり市議会議員 椎名祐司 (別紙)

1. 視察日程 令和2年 1月29日(水)～31日(金)

2. 視察先及び視察目的

- (1) 愛知県田原市「たはら健康マイレージ」について(健康福祉部健康課)
- (2) 愛知県田原市「親子交流館すくっと」について(健康福祉部健康課)
- (3) 静岡県湖西市「移住・定住施策」について
(企画部企画政策課)
- (4) 静岡県湖西市「ボートキッズパークモーヴィ浜名湖」について(浜名湖競艇企業団)

3. 視察概要

◎愛知県田原市：たはら健康マイレージについて

説明者：田原市健康福祉部健康課長 木村由紀子
田原市健康福祉部健康課主査 藤井道子
田原市健康福祉部健康課主査 木村有紀枝

〔概要〕

田原市では、「みんなが幸福を実現できるまち」を理念とした改訂版第1次田原市総合計画を基に、「市民の幸福」にスポットをあてたまちづくりとして、健康都市づくりに取り組んでいます。

田原市が目指す健康都市とは、一人ひとりが積極的に健康づくりに取り組む、外に出かけやすいまちをつくる、地域や人とのつながりを深めることであり、その実現に向けた取り組みとして健康都市プログラムを策定しています。

その中で、たはら健康マイレージは健康無関心層への働きかけとして、楽しみながら健康づくりを推進するために実施されています。たはら健康マイレージは、自主的な健康づくりの目標を設定し、健診(検診)の受診、健康都市関連のイベント、講座などへの参加をポイント化し、ポイントを集めると記念品と交換できる制度です。対象者は小学生以上の田原市民、市内在勤、在学の方で、100点貯まると達成者一人に500ポイント引換券、さらに3月には、抽選で記念品が当たる公開抽選会を実施しています。

平成26年度から事業を開始し、達成者は39名。平成27年度達成者223人。

平成28年度達成者546人。平成29年度達成者579人。平成30年度達成者1,088人。令和元年度達成者は1,090人の予定とのことでした。

<所感>

楽しみながら健康になってポイントがもらえる「たはら健康マイレージ制度」は、家族や学校、地域の中でも健康に対する意識づけにつながると思います。さらに、小学生の頃から食育や健康を意識することで、健康無関心層にも関心を持たせる良い機会だと考えます。今後も、マイレージの参加と受診率を高めていくという課題があるとのことでしたが、健康意識が高まり、医療費削減につながるのであれば、健康マイレージ制度の導入も検討していく必要があると思いました。また、研修の合間に、ラジオ体操第1・田原弁版を使い、ラジオ体操を行いました。市の職員全員が毎朝、就業前に、田原弁版のラジオ体操に取り組むことで、健康意識の向上にもつながっているとのことでした。

◎愛知県田原市：田原市親子交流館すくっとについて

説明者：田原市親子交流館すくっと館長（保健師） 廣田直子

健康福祉部親子交流館

館長補佐兼親子交流館係長

仲谷和也

〔概要〕

田原市では、三河田原駅前工場跡地活用事業として、国の認可による中心市街地活性化基本計画による商業施設、まちなか広場（ラグラン）を平成30年度に開業し、平成31年度親子交流館すくっとを開業しています。ラグランの建設費は国交省からの補助率45%で約16億円。この内、親子交流館は約7億3千万円で建設されています。

田原市親子交流館すくっとは、妊娠期からの子育て相談や親子で遊べる遊具など、子育て世代にうれしい施設となっています。この施設では、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない子育て支援サービスが集約され、産後に受けられる支援をイメージできるよう、母子健康手帳の交付は個室で1時間かけるなど、妊娠・出産・子育てのサポートがすべて受けられるようになっています。ママサポーター（看護職）や子育てコンシェルジュ（保育士）が常駐しているため、子育ての悩み相談をはじめ、一時預かりサービスは土日・祝日も実施しています。

＜所感＞

田原市親子交流館は、雨の日でも親子で遊べる遊び場コーナー（2万4千個のボールプール、ネットで遊べるうみべねっと、そらのねっと、ボルダリング）をはじめ、事前予約がなくてもいつでも気楽に立ち寄って、子育ての相談ができる優しい雰囲気づくりがありました。午前9時から、視察研修させていただきましたが、10時近くになると親子連れの来館者が多く見られるようになりました。子育て世代の皆さんが、安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠期から子育て期まで、一つの施設で切れ目のないサポートができる体制づくりについては、みどり市にとっても重要であると痛感しました。

◎静岡県湖西市：移住・定住施策について

説明者：湖西市企画部企画政策課長

安形友哉

湖西市企画部企画政策課 課長代理兼定住促進係長

山本敏博

湖西市企画部企画政策課定住促進課係長

稲垣慎介

〔概要〕

湖西市内には、事業所が多く、現状、市外（浜松市3割、豊橋市3割、市内4割）から多くの方が通勤しています。そこで、関係人口として、市外から市内事業所へ通勤している方に「職住近接」をPRし、市内への移住を促進するための施策を推進しています。「職住近接」とは、職場と住まいが近くにあることにより、通勤時間に余裕ができ、そこでできた時間を家族との時間や自分の趣味にあてる、ゆとりあるライフスタイルのことで、影山剛士市長の打ち出した施策の一つとなっています。

湖西市では、移住・定住を進めて行くにあたり、庁内で横断的に実施し、より効率的・効果的に進めていくことを目的として、関係部長を委員とする庁内会議を月1回の頻度で開催しています。さらに、必要に応じて、月1回程度、課長以下担当者によるワーキンググループ会議を開催しています。

湖西市における移住・定住施策に対する補助制度として、新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金は、平成30年10月にスタートしました。この制度は、結婚を機に市内に転入した夫婦（転入者は夫婦どちらかでも可）に応援金として10万円を交付するもので、対象年齢は、夫婦ともに34歳以下の夫婦となっています。申請件数は平成30年度31件。令和元年度は12月末時点で49件となっています。

住もっか「こさい」定住促進奨励金は、令和元年10月からスタートしました。この制度は、市内に住宅を建築、または購入し、居住する方に最大100万円の奨励金を交付するもので、対象住宅は、新築住宅や建売住宅のほか、分譲マンションや中古住宅の対象となっています。対象年齢は、単身者の場合は40歳未満。申請者が婚姻している場合は、夫婦の合計年齢が80歳未満としています。令和元年12月末で申請件数は1件とのことでした。定住促進奨励金の予算として、令和元年度1,448万6千円。令和2年度は5,740万円を予定しています。補助制度については、最低3年間は実施する予定で、その後、制度を廃止するのか、改正するのかについては、検証をする必要があるため、制度の効果、制度が湖西市への移住のきっかけになったのかを含め手、検証していくとのことでした。

<所感>

湖西市では、今後も庁内会議を継続実施し、現状の市民にだけでなく、市外の方にも魅力あるまちづくり、情報発信を行う意識を全庁的に共有するとのことでした。視察終了後、偶然、影山剛士市長にもお会いすることができました。市長自ら、湖西市LINE公式アカウントのPRをされていましたが、まず、湖西市を知ってもらう、一度来てもらうことにも力を注いでいる姿に感銘しました。

◎静岡県湖西市：ボートキッズパークモーヴィ浜名湖について

説明者：浜名湖競艇企業団 企業長 菅本利隆

浜名湖競艇企業団 企業次長 松島伸吾

〔概要〕

浜名湖競艇企業団は、浜名湖競艇場の競艇施行に関する事務を目的に設置され、事業収益は3分の1を湖西市、3分の2を浜松市に分配しています。

モーヴィ浜名湖は、地元への開放、遊び場の提供、将来のファン獲得というなかで、ボートレース場を「より身近な場所」にするための事業として来場促進を目的に、令和元年12月14日、全国3番目の施設としてオープンしました。設置場所は中央スタンド1回の旧第3投票所エリアで、面積813㎡。入場料は大人・子供300円（レース開催日の大人料金はレース場入場料100円を含む）対象年齢は6か月から12歳まで（要保護者同伴）。目標入場者数は、令和元年度、年間82日、42,550人。令和2年度以降、年間250日、13万2,250人を目標にしているとのことでした。

<所感>

桐生競艇場も電話投票は増加しているものの、ここ数年、本場来場者が減少するなかで、モーヴィ浜名湖のような親子の遊び場により、新たなニーズづくりが重要だと考えます。地域に開かれた親子の新しい居場所として、工夫を凝らした施設運営については学ぶべきものが多くありました。

<所感>

1. 愛知県田原市：たはら健康マイレージについて

田原市では楽しみながら健康になってポイントがもらえる「たはら健康マイレージ制度」を市、市民、商工会などと連携して取り組んでいます。農業出荷額日本一の地場の野菜や果物を使っのレシピなども作られており、学校給食センターでの地場食材採用なども含め、小さい子どものうちから健康に対する意識づけがおこなわれています。

健康なうちから健康診断を受診し、何か1つでも健康に繋がる習慣を続けポイントを貯める事によって楽しみもふくらみます。今はまだ、全市民の割合では少数での取組という事です但活動が広がれば結果的に医療費も削減されると考えられます。また、市が「田原弁版のラジオ体操第一」のCDを作成し、市民であればCDも支給され、市役所庁舎や企業、各種団体などで朝のラジオ体操の啓発が行われています。

町のあちこちで、日常的に行われる事によって健康とコミュニケーションが生まれると思いました。

2. 愛知県田原市：「親子交流館すくっと」について

親子交流館すくっとは子育て世代のための子育て支援とまちなかの遊び場として、妊娠・出産の相談から一時預かり、子どもの遊び場とお母さん同士や子守をし連れてくるおじいさんやおばあさんも含め1つの施設で多彩な交流ができるスペースとなっている。三河田原駅は渥美半島の最先端に位置し、海や春先には菜の花が満開になり気候も温暖な地域である。駅前に商業集積をするのではなく、まず子どもを中心とした交流ゾーンを創るという事は、自ずと人が集まり駅前が活性化するという事を強く感じました。

3. 静岡県湖西市：移住・定住施策について

湖西市では、移住・定住策として、住もつか「こさい」定住促進奨励金として市内に住宅を建築・購入で最大100万円の奨励金交付や新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金として、結婚を機に湖西市に移住するきっかけづくりをすすめ、こちらは平成30年度と令和1年度の約2年間で19件の実績をあげている。

4. 静岡県湖西市：ボートキッズパークモーヴィ浜名湖について(浜名湖競艇事業団)

ボートキッズパークモーヴィは全国に3番目に出来た施設で競艇場建物内ほぼ中心のところに子ども連れの親子の遊び場として設けられており、若い世代の親子が安心して利用できる食べ物の屋台の店やフードコート、モスバーガーも出店している。ボートレース桐生においても、若いファンを誘客するにはこのようなコーナーを設ければ気軽に遊びに来れる施設になるだろうと思いました。

<所感>

1. 愛知県田原市：たはら健康マイレージについて

田原市では楽しみながら健康になってポイントがもらえる「たはら健康マイレージ制度」を市、市民、商工会などと連携して取り組んでいます。家族や学校、地域の中でも健康に対する意識づけにつながると思います。農業出荷額日本一の地場の野菜や果物を使っのレシピなども作られており、学校給食センターでの地場食材採用なども含め、小さい子どものうちから健康に対する意識づけがおこなわれています。健康なうちから健康診断を受診し、何か1つでも健康に繋がる習慣を続けポイントを貯める事によって楽しみもふくらみます。今はまだ、全市民の割合では少数での取組という事ですが活動が広がれば結果的に医療費も削減されると考えられます。また、市が「田原弁版のラジオ体操第一」のCDを作成し、市民であればCDも支給され、市役所庁舎や企業、各種団体などで朝のラジオ体操の啓発が行われています。町のあちこちで、日常的に行われる事によって健康とコミュニケーションが生まれると思いました。

2. 愛知県田原市：「親子交流館すくっと」について

豊橋鉄道渥美線の三河田原駅前の工場跡地活用事業として市が平成26年に跡地を取得。平成30年度には商業施設とまちなか広場が開業し親子交流施設の設計、建設工事が開始され平成31年4月にすくっとが開業。子育て世代のための子育て支援とまちなかの遊び場として、妊娠・出産の相談から一時預かり、子どもの遊び場とお母さん同士や子守をし連れてくるおじいさんやおばあさんも含め1つの施設で多彩な交流ができるスペースとなっている。三河田原駅は渥美半島の最先端に位置し、海や春先には菜の花が満開になり気候も温暖な地域である。また、トヨタ系の工場など働く場所にも恵まれているため若い世帯も多く自然に子どもも多い街であるという印象が残りました。駅前に商業集積をするのではなく、まず子どもを中心とした交流ゾーンを創るという事は、自ずと人が集まり駅前が活性化するという事を強く感じました。

3. 静岡県湖西市：移住・定住施策について

湖西市は人口5万9000人、工業出荷額は1兆6000億で県内第3位の工場の多い街であるが、東に浜松市、西には豊橋市と隣接し市外から湖西市に働きに来る人口が1万人ほどで夜になればまた市外へ帰ってしまう。そうした中、移住・定住策として、住もつか「こさい」定住促進奨励金として市内に住宅を建築・購入で最大100万円の奨励金交付や新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金として、結婚を機に湖西市に移住するきっかけづくりをすすめ、こちらは平成30年度と令和1年度の約2年間で19件の実績をあげている。また、市内にはトヨタ自動車の創業者、豊田佐吉の生家もあり、市役所の1Fのロビー中心部には「豊田式織機」の原型もかざられており、世界のトヨタ発祥の地でもある。

4. 静岡県湖西市：ボートキッズパークモーヴィ浜名湖について(浜名湖競艇事業団)

競艇場建物内ほぼ中心のところに子ども連れの親子の遊び場としてモーヴィ浜名湖は設けられており、若い世代の親子が安心して利用できる食べ物の屋台の店やフードコート、モスバーガーも出店している。

<所感>

1、愛知県田原市；たはら健康マイレージについて

人口62,000人（平成31年3月31日現在）、出生率436人（平成29年）、高齢化率27,0%の田原市です。「みんなが幸福を実現できるまち」を理念とした「市民の幸福に」にスポットを当てたまちづくりを展開している。その背景には、食生活や運動習慣などを原因とする生活習慣病が増え、介護を要する高齢者や認知機能の低下した高齢者が増えていると言うことがある。マイレージの概要は、①検診を受けたら30点、②健康づくり取組30日以上1日2点で60点以上、③イベント等1回10点、④紹介10点で、小学生以上の田原市民、市内在勤、在学の方。ウォーキングを始めるきっかけとして「あと1000歩歩かまい」キャンペーンを実施している。家族や友人で参加して健康意識を高めて、健康づくりの輪を広めている。みどり市もウォーキングを奨励し、健康づくりの様々な取り組みをしている。田原市のマイレージをためる方法は、個人の励みになり。健康意識が高まると感じた。

2、愛知県田原市：「親子交流館すくっと」について

子育て世代のための子育て支援とまちなかの遊び場田原市親子交流館は三河田原駅前にある集いの場です。駅前に、すくっと、まちなか広場、ベーカリーカフェ、観光案内所が、集約されて使い勝手のいい立地となっている。入り口を入ると、遊びの広場があり、ボールプール、ネット遊具が出迎えてくれ、いかにも子どもたちが楽しくなり、喜びそうなつくりとなっている。母子手帳の交付、妊産婦相談、母乳相談、子育て相談と幅広く手厚く相談体制が確立している。土日祝も利用可能な一時預かりサービスがあり、母親にはありがたいサービスが充実していて、子どもの遊び場とお母さん同士の交流の場で多くの親子が楽しくあそんでいた。みどり市も、多世代交流館が開設をし、子育て支援、また様々な世代の方々の居場所づくりを目的としている。研修を通して、みどり市に取り入れて欲しいものが沢山あり、これから提案をさせて頂きながら、多くの市民の皆さんに利用して頂ける多世代交流館になるよう努力を重ねて行きたいと思いました。

3、静岡県湖西市：移住・定住施策について

人口59,656人です。しかし昼夜間人口差が7,000人～10,000人という特殊な人口形態をしている。浜松市と豊橋市に挟まれた湖西市は、市内に事業所が多く、市外から多くの方が通勤している方に、「職住近接」をPRし、市内への移住を促進している。世界に誇る工場が多く進出している湖西市を大変羨ましく感じた。浜松町、豊橋に住んでいる方がいかに湖西市に移住定住してくれるかを模索しながら取り組んでいる。みどり市も工場誘致を実現し、働く場の確保を第一に考え、移住定住施策を考えたい。

4、静岡県湖西市；ポートキッズパークモーピィ浜名湖について（浜名湖競艇企業団）

まず感じたのはとても水がきれいな競艇場でした。地元への開放、遊び場の提供将来のファンの獲得を目指し、より身近な場所にするための努力をしていた。学び参考にしたい。

(別紙)

視察報告書

みどり市議会議員

丹羽 あゆみ

<所感>

1. 愛知県田原市：たはら健康マイレージについて

「みんなが幸福を実現するまち」を理念に、「市民の幸福」にスポットをあてたまちづくりを展開する田原市。H25.7月に「WHO健康都市種合」に加盟。健康無関係層にも健康をいそと「たはら健康マイレージ」を平成26年度より行っている。検診・健康づくり取組イベント等への参加、紹介と4つの項目で100点以上になると抽選で記念品を贈呈。平成30年度は達成率1088人という実績。マイレージ推進に向けての課題として事業の成果検証、後継世代への波及、記念品の見直し、アプリ導入とテレビボードの定点画と市による影響とについてあるが、健康づくりの輪は確実に広がっているものと考えられる。

2. 愛知県田原市：「親子交流館すくっと」について

親子で楽しめる大型遊具や、妊産婦期から子育て支援サービスがうけられる屋内型施設である「親子交流館すくっと」。母子健康手帳の交付もこの施設で行い、出産後のサービスを個別にシミュレーションし、セカ目ない支援を提供している。マサホーター（看護職）や子育てコンシェルジュ（保育士）の相談も受けられる他、一時預かりルーム「にこ」と、子育て支援センター「イククルーム」の他、貸きであるマルチスタジオ、カルチャールームとコミュニティを創出できる総合的施設であり、本市でもぜひ取り入れてほしいサービスが充実していた。

3. 静岡県湖西市：移住・定住施策について

市外から市内事業所へ通勤する方に「職住近接」をPRし、市内への移住を促進する本施策には、ワーキンググループ開催の他、イベントへの参加、平成30年10月スタートの新婚2人「こまい」へあいじん新生活応援金、令和元年10月スタートの住みか「こまい」定住促進奨励金、平成31年4月スタートの移住就業支援補助金と補助制度も充実。補助制度のPR、移住・定住に対する意識の向上、湖西市の知名度、PRポイントでの差別化と課題も多くあるが、地道な事業の実施の重要性を改めて感じるところであった。

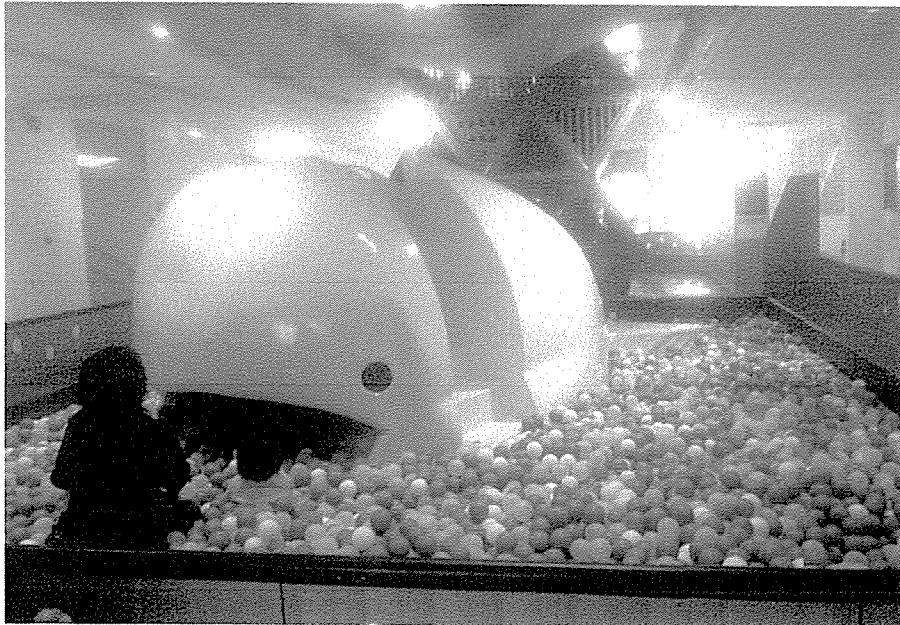
4. 静岡県湖西市：ボートキッズパークモーヴィ浜名湖について（浜名湖競艇企業団）

地元への開放、遊び場の不足、将来のファン獲得という中で、ボートレース場を「より身近な場所」にするための事業であるモーヴィ浜名湖は令和元年12月14日にオープンしたばかりのキッズパークである。入場料は大人、幼児共500円でレース開催日の大人料金はレース場入場料100円を含まない。ハイハイレースや遊具相撲などのイベントを開催し、令和元年度は年間82日、42550人の入場者数、令和2年度以降は年間250日、132250人を見込み、「この街にボートレース場があることに」と感じてもらいたいというコンセプトに、地域交流に大きな貢献をしていると感じた。

<愛知県田原市役所>



<田原市親子交流館すくっと>



< 静岡県湖西市役所 >



< 静岡県湖西市役所・影山剛士市長 >

